9 学習過程

学習活動	○:支 援　☆:評 価							資料・準備物
	全　体	個　別						
		A児	B児	C児	D児	E児	F 児	
1 始めの挨拶をする。 2 配役を決める。 劇:「おむすびころりん」 役:おじいさん おばあさん わるいおじいさん ねずみ	○T1:これから行う劇と登場人物を確認する。 ○T1:配役について、児童の希望を取る。配役記録表を示し、なるべく以前と同じ役に偏らないよう言葉掛けする。	○T1:希望する役が他の児童と重なり、それが以前に経験したものであるときには、配役記録表を示し、別の役をするよう促す。	○T2:希望する役が他の児童と重なり、それが以前に経験したものであるときには、配役記録表を示し、別の役をするよう促す。	○T2:希望した役が、本当にやりたい役なのか確認する。	○T1:希望する役が他の児童と重なり、それが以前に経験したものであるときには、配役記録表を示し、別の役をするよう促す。	○T2:希望する役にならなかったとき、「前にやったね。」「次はできるかもしれないね。」など、納得ができるような言葉掛けをする。	○T1:消極的な態度が見られるときには、遠慮せず希望してよいことを伝える。	・テレビ ・パソコン ・指示棒 ・配役記録表
3 「今日のめあて」が「相手の顔を見ながら(せりふを言う)」であることを知る。	○T1:全体で「劇が上手になる8つの方法」を読んで確認する。 ○T1:「今日のめあて」を意識できるよう、カードをテレビ画面の下に掲示する。	「劇が上手になる8つの方法」 ① みんなに聞こえる声で　② ゆっくり、はっきり　③ ○○の気持ちになって　④ 相手の顔を見ながら　⑤ おしりを向けない　⑥ 印に合わせて　⑦ しゃべらない　⑧ こっそり教える ④ 相手の顔を見ながら						・「劇が上手になる8つの方法」カード④
4 劇遊びをする。	○T1:児童がせりふや動きを想起できるよう、場面に合わせ、大型画面に絵本の絵を映し出す。 ○T1:客席を向いて演技するよう、ジェスチャーで示す。 ○T1:良い演技が見られた児童には、劇の流れを止めないように配慮しながら、「いいね。」「うまい。」などと言って評価する。	○T1:相手を見ながらせりふを言うよう、ジェスチャーで示す。 ○T2:出番やせりふを忘れた友達には小声で教えるよう言葉掛けする。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	○T1:相手を見ながらせりふを言うよう、ジェスチャーで示す。 ○T1:演じる役の気持ちを考えて演技するよう、大型画面の絵を指し示す。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	○T2:演じている友達を見るよう言葉掛けする。 ○T2:出番に気付いていないときには、少し待ってから言葉掛けする。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	○T1:せりふをゆっくり言うよう、ジェスチャーで示す。 ○T2:出番やせりふを忘れた友達には小声で教えるよう言葉掛けする。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	○T2:演じている友達を見るよう言葉掛けする。 ○T1:相手を待ってからせりふを言うよう、ジェスチャーで示す。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	○T1:相手を見ながらせりふを言うよう、ジェスチャーで示す。 ○T2:出番やせりふを忘れた友達には小声で教えるよう言葉掛けする。 ☆ 「今日のめあて」を意識して演技できたか。	・テレビ ・パソコン ・指示棒
5 ビデオを見て振り返る。	○T1:「今日のめあて」を確認する。 ○T1:客観的な評価ができるよう、できた児童には、表に○印をつける。 ○T1:ビデオを流しながら、「○○君の～がいいね。」など、次の活動のヒントになる言葉掛けをする。	○T1:声が大きくなってきたときには、静かにするようジェスチャーで示す。	○T2:「○○君の～がいいね。」など、自己評価、他者評価につながる言葉掛けをする。	○T2:画面を見るよう言葉掛けする。	○T2:「○○君の～がいいね。」など、自己評価、他者評価につながる言葉掛けをする。	○T2:「○○君の～がいいね。」など、自己評価、他者評価につながる言葉掛けをする。	○T1:発言が多くなってきたときには、静かにするようジェスチャーで示す。	・テレビ ・ビデオ ・指示棒 ・「今日のめあて」確認表
6 「今日のめあて」が達成できたか評価する。	○T1:自己評価と他者評価を合わせ、点数(6点満点)を付ける。不当な評価であれば、修正できるような言葉掛けをする。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	☆ 「今日のめあて」について、客観的に評価できたか。	・テレビ ・パソコン
7 友達の良かったところを発表する。	○T1:発表した児童と評価された児童にはがんばりメーター表にスタンプを押す。スタンプがたまったらシールがもらえることを伝え、意欲を高める。 ○T1:児童が発表しやすくなるよう、「○○さんが、～ので、よかったです。」という話型を提示する。 ○T1:挙手して発表することを確認する。 ○T1:どの児童も頑張ったと感じられるよう、補足の評価をする。	○T1:発表したいがうまく表現できないとき、「誰が良かったですか。」「どんなところが良かったですか。」などと質問し、それを話型に当てはめて発表するようにする。 ☆ 挙手して発表したり、友達の発表を最後まで聞いたりすることができたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	○T2:発表する様子が見られないときには、「気が付いたことがあれば、手を挙げて発表していいよ。」のように言い、挙手して発表することを促す。 ☆ 友達の良かったところを見付けて発表することができたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	○T1:自分から発表したことを評価する。 ○T1:発表したいがうまく表現できないとき、尋ねたり確認したりして教師が代弁し、まねて言うようにする。 ☆ 挙手して気付いたことを発表することができたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	○T2:発表する様子が見られないときには、「○○さんが～していたね。」のように、発表のヒントになるような言葉掛けをする。 ☆ 教師の言葉掛けを頼りに、友達の良かったところを発表できたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	○T2:発表する様子が見られないときには、「○○さんが～していたね。」のように、発表のヒントになるような言葉掛けをする。 ☆ 教師の言葉掛けを頼りに、友達の良かったところを発表できたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	○T1:教師に向かって発言しているときには、「いいところに気付いたね。手を挙げてみんなに教えてあげて。」のように言い、発表することを促す。 ☆ 友達の良かったところを見付けて発表することができたか。 ☆ 友達や教師の評価を聞き、喜びを感じられたか。	・テレビ ・パソコン ・スタンプ ・がんばりメーター表
8 終わりの挨拶をする。								